

地質ニュース

昭和 48 年 5 月

第 225 号

1973

解 説	1973年2月1日より始まった浅間山噴火と今後の動向	木村政昭 湯浅貞義 正井義郎	1
	昭和48年度の事業計画	企画室	13
	昭和47年度の海外関係業務をふりかえって	海外地質調査協力室	16
	第24回万国地質学会に出席して	柴田賢 佐々木昭	20
	京都 大阪 奈良 神戸 堺 大津の 基盤構造についての夢想④	散官大夫	28
	地質図用カラーチャート作成について	田中憲一	32
海 洋	アメリカの海洋地質学の現状	中条純輔	42
海外事情	中央アフリカ共和国の地質と鉱物資源	小村幸一郎	50
	地学と切手	P. Q.	27
	学会掲示板		19

編 集 地 質 調 査 所

表紙の写真

浅間山の噴火

1973年2月1日午後7時20分 浅間山が11年3カ月ぶりに噴火した。その後も活動を続け 2月20日にも中爆発を起こした。迫力のある噴火の状況をカメラでキャッチしようと再度軽井沢を訪れたがそのチャンスに恵まれなかった。この写真は2月21日撮影したもので 火口から東方4kmの国道上から見た浅間山で 小浅間を前衛に白と黒のパターンで 浅間のプロフィールを表現して見た。噴煙を上げているのは釜山で 朝日にまぶしい雪の上に降灰を見ることが出来る。1日の爆発後発生した火砕流の跡は 其後の積雪のためかくされてしまっている。道路わきの雪の断面を見ると 新雪前の火山灰が鍵層のように黒い一本の線として追うことが出来る。噴煙は西風にあをられて東麓に降りてきているが 20日の爆発後に硫黄臭がして 霧雨にまじって降った火山灰が 自動車の屋根や フロントガラスにへばりついていた(本文参照) (正井義郎)

発 行 株式会社 実業公報社